

主 題：キリストを愛し続けた人 ― パウロ
 聖書箇所：使徒の働き 26章21－23節

私たちはこれまでアグリッパ王の前で弁明したパウロ自身のことばを見て来ました。今日、私たちはもう一度、この26章20節のみことばをごいっしょに見たいと思います。これまでに私たちはパウロが語った福音のメッセージを見て来ました。彼が何を語ったのか、パウロにとって福音のメッセージ、救いのメッセージとは何だったのか、そのことを見て来たのです。彼はこう言います。罪を悔い改めてイエスを信じなさいと。パウロは神からいただいたその啓示に基いて神のメッセージを忠実に語り続けて行きました。今の私たちも同じことをしっかりと肝に銘じておくことが大切です。つまり、神が語りなさいと命じたメッセージに、混ぜ物をせず、取り除くこともせずに語ることが私たちには大切なことです。ある人は言うかもしれません。「でも、聖書は難しいし、未信者には難しすぎるのではないか」と。そのことを私たちは心配しなくてもいいと言います。聖霊なる神が働かれるときに神はみわざを為されます。聞いている者が理解することができるように神は働いてくださるからです。私たちが心配しなければならないことは、みことばを忠実に語り続けて行くことです。

今朝は特に、救いの信憑性について、言い方を変えると、本当に救われているのかどうかをどうすれば確認できるのか、そのことを見て行きます。願わくば、この学びが終わった時点で、救われている方々が私は確実に救われているという確信をもってくださるように、そして、救われていない方々には今日がその救いの日となることを心から願います。20節でパウロはこのように言いました。「**ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。**」と、私たちが今日見たいのは後半のところですが、パウロがここで言っていることは、行ないをもって悔い改めの証明をするようにということです。本当に救われているということを証明して行きなさい、「**するように**」と現在形が使われているということは、そのようにしてあなたは日々生活をして行きなさいということです。つまり、約2000年経った今の私たちにパウロが教えたいこと、それは本当の救いには必ずその信仰が本物であるということの証拠が伴うということです。本当に救われている人には必ず救われているという証拠が伴うと言うのです。どういうことでしょうか？正しい良い行ないが必ずそこに生まれて来るということです。

ヨハネはヨハネの手紙第一でこのように言います。3：10「**そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。**」と、つまり、ヨハネが教えていることは、神の子どもと悪魔の子どもが存在するわけで、神の子どもはどのような特徴があるかということ、その人は善を行なうと言います。その後こう続きます。「**兄弟を愛さない者もそうです。**」、つまり、兄弟を愛するのが救われている人であり、愛さないのがそうでない人だと言うのです。ヤコブもこのように言っています。ヤコブの手紙2：14「**私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。**」と、ヤコブは当然、ここでそのような信仰は人を救うことはできませんという答えを期待しているのです。本当に救われた人には必ず良い行ないが伴ってくると、同じことを教えているのです。もう一つ、パウロはローマ6：4でこのように言います。「**私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。**」、「**私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られた**」、つまり、パウロはクリスチャンというのはもうすでに死んだ者だと言います。神を無視して神に逆らって来た自分はもうすでに死んだのだ、そして、「**キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように**」と、イエスが墓から肉体をもってよみがえって来たように、私たちも生まれ変わった者として新しい歩みをするために生きていますと、パウロが言うことも同じです。新しく生まれ変わった人、救われた人は新しい歩みを始めて行くと言うのです。みことばを見て行くと、そのことをもっと私たちに教えてくれていることに気がきます。そして、そのことを知っていた過去の勇者たちはこのように告げています。たとえば、スポルジョンという大説教家はこのように言います。

「私たちは信仰義認の教えにいのちをかけており、すべての敵対者の前で、救いは行ないによらないことを断言する心備えが必要である。しかし、同時に、私たちは行ないを生じる信仰によって義とされているのであり、もし、人が良い働きを引き出さない信仰をもっているとすれば、それは悪魔の信仰と言わなければならない。たましいを救う真の信仰は愛によって働き人格を清めるからである。」。また、18世紀のアメリカの牧師であり偉大な神学者であり、後にプリンストン大学の総長ともなったジョナ

サン・エドワーズはこのように言っています。「本当の救いは本当の回心者、つまり、信者のうちに継続した性質の変化を常に生み出す。ゆえに、聖い生活が回心者の告白に伴わないときは、この個人はキリスト者でないということを理解しなければならない。」と。彼らがしっかりみことばを見てみことばから結論付けたことは、救われた人には確実にその性質に変化が起こってくる、救いはその性質を変えて行くものだ、だから、その人に聖い生活が伴っていなければその人はクリスチャンではないということです。D・L・ムーデーは「私たちは回心させられた前と同じようには歩まない。キリスト教を信じていると告白していながら、これまでと同じように古い生き方を歩み続けている男女は新生していなかったのである。」、つまり、こういうことです。みことばが私たちに教えてくれること、そして、それを学んだ先輩たちが私たちにも教えてくれていることは、本当の信仰には必ず証拠が伴う、救われた人は必ず生き方が変わって行くということです。なぜ、そのように断言できるかというと、救いは神のみわざだからです。私たちが努力をして得るものではありません。私たちの行ないによって得るものでもありません。救いは神からの一方的な恵みであり神のみわざだから、神のみわざが私たちのうちに始まったなら私たちは変わって行くのです。

モーセがシナイ山に登って神と会見しているときに民は罪を犯しました。イスラエルの民はエジプトから出て来てシナイ山のふもとまで来てそこで大きな罪を犯すのです。しかし、実際に滅ぼされたのはわずか3000人でした。そのときに神が言われたことがパウロによってローマ書の中に記されています。「**神はモーセに、「わたしは自分のあわれむ者をあわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ。」と言われました。**」(ローマ9:15)と、つまり、救いは神のみわざなのです。あなたがたとえ人の目に見える良い働きをしたとしても、神はそれをご覧になってじゃあ救ってやろうなどとは絶対に思われません。神にはあなたの本当の姿が見えているからです。私たちは神の前に何一つ自慢することのできない罪に汚れた者であり、私たちのうちには神が心を引かれるようなものは何一つないのです。神の前には私たちの本当の姿が映っているのです。では、そのような神がどうして私たちにこのようにあわれみをかけ、このように救ってくださったのでしょうか？それは神の一方的な恵み、あわれみのみわざだということです。だから、こう言います。ローマ9:16「**したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。**」と。救いは100%神のみわざなのです。神によって私たちは救われるのです。ですから、救われた人のうちに神のみわざが始まって行くのです。パウロはⅡコリント5:17でこのように言います。「**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。**」と、生まれ変わったのです。

「救われる」ということを言い換えると「聖霊をいただく」となります。救われるということはまさに聖霊をいただくことです。本当に救われた人には間違いなく聖霊が与えられます。聖霊が与えられたからその人は救われたのです。聖霊が与えられていない人も教会に属することはできます。でも、目に見えないキリストのからだに属することはできません。キリストのからだに属するためには聖霊をいただいているなければいけない、救われていなければいけないのです。そうすると、救われた人は聖霊をいただいた人です。聖霊なる神は私たちのうちで何をするのでしょうか？みことばが教えるように、栄光から栄光へと主と同じ姿にその人を変えて行くのです。Ⅱコリント3:18で「**私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。**」とパウロが教えている通りです。

整理しましょう。本当に救われた人は救われた瞬間に聖霊なる神をいただきました。聖霊なる神がその瞬間からその人のうちにその人を変えて行くという働きを始めるのです。「**主と同じかたちに姿を変え**」て行こうというそのような聖化の過程が始まって行くのです。しかも、パウロはピリピ2:13でこのように言います。「**神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。**」、注目してください。「**神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ…**」と、つまり、神がクリスチャンのうちにどのようなことを為すのか、まず、その人のうちに「**志を立てさせる**」、すなわち、思いを与えるのです。どのような思いでしょう？正しいことを行なうて行きたいという願いを与えるのです。それだけではありません。「**事を行なわせてくださる**」と、すなわち、その目標に到達することに神は助けをくださるということです。ですから、神は私たちの考え、思いを変えてくださって神の前に正しいことをして行きたいという願いをいただただけでなく、そのように私たちが歩んで行けるように、神が力を与えていってくださるのです。このようなわざを神は救われた人のうちに為すのです。だから、パウロがペテロが使徒たちが、そして、私たちの先輩たちが皆言ったのです。本当に救われた人は生き方が変わると…。なぜなら、神がその人の性質を変えて行ってくくださるからです。

私たちが常にしなければいけないこと、それは自分の信仰が本物であるかどうかを吟味することです。「信仰を吟味しなさい」ということは何度も言われていることです。それはここにおられる人がだれ一人も永遠の滅びに行つてほしくないからです。私には皆さんのこと、皆さんの心は分かりません。しか

し、あなたと神は分かっています。だれ一人としてその救いから漏れることがないように、私たちはこれからも皆さんにこのことをチャレンジして行かなければなりません。あなたの信仰は間違いないですか？何に自分の信仰の土台を置いていますか？と。今から約300年前程前のことです。先ほど話したジョナサン・エドワーズが生きていたその時代には、このような教えが広まっていました。「本当の救いに関する唯一真の証拠は回心のときにおける感情的経験である。」と。つまり、過去を振り返って、信じたときに何か心が温かくなったとか、うれしかったとか、そのような過去の経験をみて自分は救われているとするのです。自分が救われていることの根拠を過去のあるときに経験したその出来事に置いたのです。ですから、その当時の人々は今自分が聖さを求めているかどうかということをもって、本当に自分は救われているかどうかなどは考えなかったのです。現在、神の前にどのような正しい思いをもって生きているかどうかなどはどうでもよかったのです。過去の感情的経験、それが救いが与えられているかどうかを判断する彼らの根拠だったのです。ジョナサン・エドワーズはそのような社会にあってこんなことを言います。「救いの保証は過去の経験に基いて享受されることは決してない。保証を与えるためには現在の、また、継続した聖霊の働きが必要である。」と。つまり、救われているかどうかはそのような過去の経験、感情ではなく、今、自分がどのような者になっているか、どのように変えられているかです。それをもって聖霊が自分に内住し、自分のうちに働いているかを見極めるのです。なぜなら、そのような宗教的な経験をするなどだれにでもできます。キリスト教でなくてもそのような経験をしている人はたくさんいます。肝心なことは、今現在、神があなたのうちに働いているかどうかです。そのように今から250～300年前程、ジョナサン・エドワーズは人々に語ったのです。その当時の人々はそんなことなど信じていませんでした。今の私たちに似ていませんか？今、神がどのように私たちの心の中に働いているかによって、自分の信仰が本物かどうかを吟味するよりも、過去のあのときにあの祈りをしたとか、あのとき招きに対して手を上げたとか、それによって私は救われていると信じ込んでいる未信者がたくさんいるということです。私たちは聖書のみことばを見て、救いは神からの賜物であるということをしっかり覚えるなら、間違いなく救われた人には神の働きが始まり、その働きは継続しているはずなのです。

もし、あなたの心の中に今、神に対して正しく生きること、聖く生きる願いがなければ、あなたの信仰は疑わしいものです。私たちがよく耳にすることは、私は永遠のさばき、地獄から逃れたいからイエスを信じた、恐怖心を植えつけて、その永遠のさばきから逃れたいからイエスを信じなさいという、このアプローチは非常に問題があります。よく考えてください。永遠のさばきに会いたくないから救いを求めたとすれば、それは救われる前に生きていたときと余り変わらないのです。つまり、私たちはご利益を求めて生きて来たからです。自分のほしいものを求めたのです。地獄に行きたくないから、天国に行きたいから…、自分のほしいものを求めていることでは同じことです。聖書が教える救いは自分のほしいものを得ることではなくて、主に対する罪を悔い改めて主に立ち返ることです。すなわち、神に対して正しくなることです。そのとき私たちは初めて創造された本来の目的に沿って生きる者になるのです。あなたは何のために造られましたか？神の栄光を現わすためです。その目的を無視して好き勝手に生きてきたのが私たちであり、神に対して罪を犯してきました。私たちはその罪を神の前に悔い改めました。「神さま、私は間違っていました。あなたが神であり、創造主である真の神です。私のこれまでの罪は余りにも大きくて私はそれに対してどうすることもできないし、私を生まれ変わらせることも私の力ではできません。でも、こんな罪人の私のために救い主イエスさまを送ってくださり、そのイエスさまを私の身代わりに十字架で殺してくださり、そして、約束どおり三日目によみがえらせてくださった、私はあなたの前に罪を悔い改めます。そして、私を救うためにいのちを捨ててくださったイエス・キリストを信じ、このイエスさまを私の主として、救い主として私の神として心から従って行きます。どうぞ、私を生まれ変わらせてください。」と。クリスチャン、それは本来創造された目的に従って生きている者たちです。つまり、神の栄光のために生きる者たちです。

私たちはこのことをしっかり考えなければいけないのですが、もう少し、皆さん自身が本当にこの救いをいただいているかどうかを確認するために、今から五つのことを言います。ぜひ、それをもって自分を吟味してみてください。本当に救われた人はこのような変化が生まれた人です。

☆本当に救われた人はどのように変わるか？

1. 良い働きをする人々

エペソ2：10でパウロは言いました。「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」、神は良い行ないを備えてくださった、そして、私たちは良い行ないをして行く者になったのです。良い行ない、今までの私たちは自分の思い通りに好きなことをしていましたが、生まれ変わった人は、神の前に何が正しいのか、何が神の前に喜ばれるのか、そのことを考えて選択して

行く、それが良い行ないです。どこかで何か慈善事業をするということではありません。神の前に正しいことをして行こうとするのです。

2. 兄弟を愛する

「私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。」（Iヨハネ3：14）、救われた人は兄弟姉妹を愛するのです。サタンは必ず教会の中にいろいろな問題をもたらします。一致を生み出したいからです。教会が一つになっていたらその教会は神の栄光を現わして行きます。それを望まないからいろいろなことをもって分裂分派を生もうとするのです。あの人はこうだ、この人はああだから嫌いだと言って私たちはお互いを受け入れて愛し合うことができないのです。愛し合うことはその罪を見て見ぬ振りをするということではありません。愛する者はその罪に対してそれは間違っていると教えることも必要です。そのようにしてお互いが正しく歩み合って行くように助け合って行くのです。兄弟を愛することは救われている人の特徴です。

3. 主への従順

神に対して従順に歩んで行こうとすることです。主に従うことが喜びであるかどうかを考えて見てください。クリスチャンはイエスがだれであるのかを知って、その主権者であり救い主であるイエスを信じ受け入れ従う決心をした者です。つまり、救われた人はキリストの主権に従おうとそのことを決心した人なのです。私の人生を私が生きて行くのだと思っている人は救いが分かっていないのです。そのように生きて来た生き方がいかに創造主なる神の前に罪であり、神が私を造ってくださった目的に相反するものであるということに私たちは気付かなければいけないのです。私を造ってくださった主権者なる神に従順に従って行くことが神の創造の目的です。グレイス・コミュニティ教会で牧会されており、また、マスターズ神学校の学長であるジョン・マッカーサー博士はこのように言います。「救いは知性による単なる決断を求めることではない。しかし、心を知力を意志を、すなわち、全人、自分のすべてをキリストに明け渡すことである。」と。この方は神です。自分の造り主です。その方はいのちを捨てて私たちを罪から救ってくださった方です。私たちができることは、神さま、どうぞ、私のすべてをお受けください、私があなたに忠実に従って行けるように助けてくださいと願うことです。これまでの私たちはそのようにしませんでした。そのようにしなかったのです。神に従うのではなく自分の思う通りに生きて行きたかったのです。神が私たちの罪深さに目を開かせてくださったときに、それが間違っていたことに気づき、あるべき姿に立ち返ろうとするのです。あなたは主です、あなたは神です、私はあなたに従って行きますと。

皆さんはお聞きになったことがあるかもしれませんが、このような教えが日本だけでなく世界的に入ってきました。それは、人々はイエスを救い主と信じてその時にはイエスを主人としては受け入れない、後になって主人として受け入れると。聖書を見るとこれは大変大きな間違いです。20世紀の預言者、また、福音主義の良心と呼ばれたA・W・トーザーという牧師は「私はそれを異端と呼ぶ」という本の中でこのように言っています。「男女に分裂したキリストを信じるようにと勧めることは間違った教えである。だれも半分のキリスト、三分の一のキリスト、四分の一のキリストを受け入れることはできない。」と。たとえば、だれかを愛するときあなたの半分だけを愛しますというのが愛でしょうか？だれかを受け入れるときに、その人がどういう方かを知ることは大切なことです。私たちがキリストを見て、イエス・キリストがだれなのかとなったとき、すべてを造られた創造主であり、ご自分の聖いいのちを私たちの身代わりに捨ててくださった救い主であり、そして、すべてのものがこの方の前にひざまずいてこの方を主と崇める主権者であること、これがイエス・キリストなのです。その一部しか信じないという信仰が神の前に喜ばれるでしょうか？本当に神の前に謙虚になった信仰でしょうか？あなたのこの部分は認めるけれどこの部分は認めないという私たちはいったい何者なのでしょう？私たちはこのイエス・キリストがだれなのか、そのことをそのままで受け入れる者です。それがみことばが私たちに教えていることです。だから、私たちは変えられるのです。イエスを正しく受け入れた人にはこのような変化が起こってくるのです。主に従うという変化を今見えています。みことばを見ると**「天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」**（マタイ12：50）とイエスはこのように話されました。つまり、イエスが言われたことは、本当のクリスチャンとはどのような特徴があるのか、神のみこころに従って行こうとするということ。父なる神が望まれていることを行なって行こうとする、そのような人々であると。だから、クリスチャンは自分の意志をイエスの主権に明け渡したのです。自分の願いを主に明け渡したのです。何度も言いますが、救われる前の私たちは自分の思い通りに生きて行きたかったしそのように生きて来ました。しかし、それが間違いだと教えられた私たちはそういう生き方ではなくて、本来の主に従って行くというそういう生き方を私たちは望みそのことを神の前に決心してその歩みを神によって始めたのです。ですから、当然、私たちは自分の願

い事ではなく神のみこころを教えてくださいと求めて歩み出すのです。だから、救われた人はこのように自分のすべてのものを主に明け渡した人です。救われてから明け渡すではありません。

また、みことばはこのように言います。救われた人は主に従う人である、みこころを行なうだけでなく、神の命令にみことばに忠実に従って行こうとする、そのような者になると言います。Ⅰヨハネ2：3に「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」とあります。ここで言われている「神の命令を守るなら」ということばは現在形を使っています。つまり、救われている人の特徴は、神の命令を継続して守り続けて行こうとするということです。また、「**わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。**」（ヨハネ15：14）とイエスは言われました。ですから、三つ目に救われた人の特徴を見たのは、神に対して従順に歩んで行こうと、それは、神のみこころに従って行こうとすることであり、神の命令にみことばに従って行こうとする、そういう生き方です。そのような生き方を今あなた自身がしていますか？と言うのです。なぜなら、あなたが救われているならあなたの心の中には当然、私の主人であるイエスに私は従って行きたい、どうぞ、みこころを教えてください、あなたの望んでおられることを行なうように助けてくださいと、そのような生き方に変わるからです。

これまで見てきたこと、本当に救われた人の特徴は、良い働きをする人になります。神の前に正しいことをやって行こうとします。二つ目に、兄弟を愛する者です。あの人はどうも…という人があるなら、その人のために祈ってください。その人の上に祝福があるように祈ってください。あなた自身が罪から解放されて行きます。そして、そのような思いをもっていることを神の前に告白することです。神は助けてくださいます。三つ目に、主への従順がその特徴です。神の教えに従って行こう、みこころに従って行こうと、そのような歩みが救われた人の特徴です。四つ目です。

4. 罪との葛藤がある

神に喜んで従って行きたいという願いをもっていますから、その神に逆らうことに対しては非常に抵抗を感じるのです。だから、罪を犯せばそれを告白するのです。ヨハネ第一の手紙1：9、皆さんよくご存じですが、「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」、クリスチャンは罪を犯さない人になったものではありません。悲しいことに、私たちはこの地上の生活において罪との戦いがあります。罪による悩ましい思いを日々経験します。悪い考えをもったり悪い態度を取ったり、悪い習慣に悩まされたり、悪い願いをもったりと、そのような中で私たちはもがいています。葛藤を経験します。しかし、救われた人はどのように変えられたかという、そのような罪に対して神の前に赦しを求めて行こうとします。罪からできるだけ早く離れて行こうとします。Ⅰヨハネ3：6と3：9でこのように教えています。「**だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちに歩みません。…**」、「**だれでも神から生まれた者は、罪のうちに歩みません。…**」と、「**罪のうちに歩む**」とは継続して習慣的に歩み続けて行くということです。救われる前の私たちはそうでした。罪を重ねてきたのです。でも、イエスによって救われた人はそれができなくなったのです。罪を犯さない者になったのではなく、罪の中を平気で歩み続けている生き方から解放されたのです。それができなくなったのです。神さま、ごめんなさい、私はあなたの前に罪を犯しましたと言って、繰り返し罪を告白して赦しを求める者になったのです。ですから、罪との葛藤があります。

5. 主を愛するようになる

ペテロはⅠペテロ1：8-9で「**あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。：9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。**」と教えています。イエスを愛するとはどういうことでしょうか？それはその人のうちには神に対する感謝があります。神さま、私を救ってくださいありがとうございます、神さま、あなたが私とともにいてくださることを感謝します、あなたは何とあわれみに満ちたすばらしい神なのでしょうと神に対する感謝、賛美があり、神と交わることが楽しくてしかたがない、そのような状態です。同時に、このイエスのことを人々に伝えることを喜びとします。キリストを恥とすることなくキリストを宣べ伝える者になります。キリストを愛しているからです。「**もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。**」（ルカ9：26）とイエスは言われました。イエスを恥としないで宣べ伝えて行くのです。そして、私たちはこのキリストに従って行こうとします。

また、「**わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。**」（ヨハネ10：27）とイエスは言われました。クリスチャンは「**わたしについて来ます。**」と。イエスに従順に従って行こうとするのです。また、イエスの模範に倣って生きようとするのです。Ⅰヨハネ2：6でも「**神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。**」とあります。救われている者はキリストが歩まれたように歩むと言います。だから、神を

愛する者は、神を賛美し神に感謝をささげ、その交わりを楽しむだけでなく、イエスのことを恥じることなく人々に話して行きます。そして、喜んでこの方に従って行こうとするし、イエス・キリストの生き様に倣って行こうとするのです。そして、もう一つ付け加えるなら、イエスにお会いする日を待望します。早く、イエスにお会いしたい、イエスを愛しているからです。

今、五つのことを見てきました。ご自分の信仰を吟味してください。このようなことが自分のうちにあるかどうかです。そして、この信仰の保証に関して言えることはもう一つあります。あなたのうちに聖霊なる神がいるなら聖霊なる神がそのことをあなたに教えてくれます。ローマ 8：16 **「私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。」**、つまり、本当に救われている人はその確信を神がくれるというのです。そのような働きをするとみことばは私たちに教えてくれます。今日、私たちは自分の救いが本物かどうかということをみことばから見て来ました。どうすればそれを吟味することができるのか、どうすればそれに確信をもつことができるのか、パウロは教えました。悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと、彼は宣べ伝えました。救われた人々には必ず変化が伴います。あなたはただ救われていると思っているだけの未信者ではありませんか？グレイス・コミュニティ教会の一人の牧師はこんなことを話されました。「約 8 0 0 0 人の教会員がいます。熱心に礼拝や日曜学校、聖書研究会などでみことばを学び、教会の活動に積極的に参加し、霊的賜物を生かして仕えている人たちは、その中の 2 0 0 0 人位だ。あとの 6 0 0 0 人の人々についてはその信仰の有無は分からない。」と。大教会です。みことばが忠実に毎週語られている教会です。たくさんの人々が集まっているけれど、約 6 0 0 0 人の人々の信仰は本物かどうか分からないと言うのです。正直、それを聞いたときはショックでした。もっとその数は高いと思いました。でも、どの教会にあっても、どの国にあっても、救われていると思いついていただけの未信者がたくさんいるということです。だから、最初に話したように、あなたの信仰が本物であってほしい、そのためには私たちはみことばをしっかりと見てそこに立たなければいけないのです。人の話ではありません。有名な先生の話でもありません。みことばが私たちに教えてくれていることに私たちは立たなければいけないのです。パウロはこのように言います。テトス 1：16 **「彼らは、神を知っていると口では言いますが、行ないでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」**と、救われていない証拠がここにパウロによって示されています。パウロは言いました。彼らは神を知っている、信じていると口では言っているけれど、実際に、彼らの生き方を見るとそれが偽りであることが明らかであると。なぜなら、救われていない人の特徴は不従順だからです。神に従って行こうなどとしていないのです。しかも、彼らは **「どんな良いわざにも不適格です。」**、つまり、道徳的に正しい良いことをしていないと言うのです。そのような人がいくら救われていると言っても、その行ないが明らかにしていると言うのです。

皆さん、いかがですか？あなたは本当に神を心から愛して神に喜んで従って行こうとしていますか？神が用いてくださるなら用いていただきたいし、もっと、自分が神の栄光のために変えられて行きたいと望んでおられますか？神が与えてくださった霊的賜物をもっと神にあって用いていただいて、このすばらしい救い主イエス・キリストのことをもっと多くの人々に知らせて行きたいと望んでいますか？イエスが帰って来てくださるということを私たちは知っていますが、その日を待望しイエスのお会いすることを心から望んでいますか？

あなたは本当に救われていますか？それが今みことばが私たちにチャレンジしてくれることです。神があなたに今チャレンジしていることです。パウロの語ったメッセージ、それは悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにということでした。この神からいただいたメッセージを彼はいのちがけで語り続けました。そして、後に彼は殉教して行きます。自分のいのちを引き換えに、彼は喜んで主に従うことを選びました。彼の生き様、それは私たちに教えてくれます。いのちがけでキリストに従ったパウロを見ると、私たちがそれから学ぶことは、確かに、パウロは神を愛していたということです。確かに、パウロは救われていたということです。あなたはいかがですか？あなたは？